I　室内における空気中化学物質の状況について

近年，快適性の向上，省エネルギーの推進等を図るため，建物の高断熱・高気密が進んでいます。一方で室内の換気が十分に行われていないことなどにより，建材等から放散される化学物質の室内濃度が高まり健康への影響（シックハウス症候群と呼ばれています）が問題とされています。

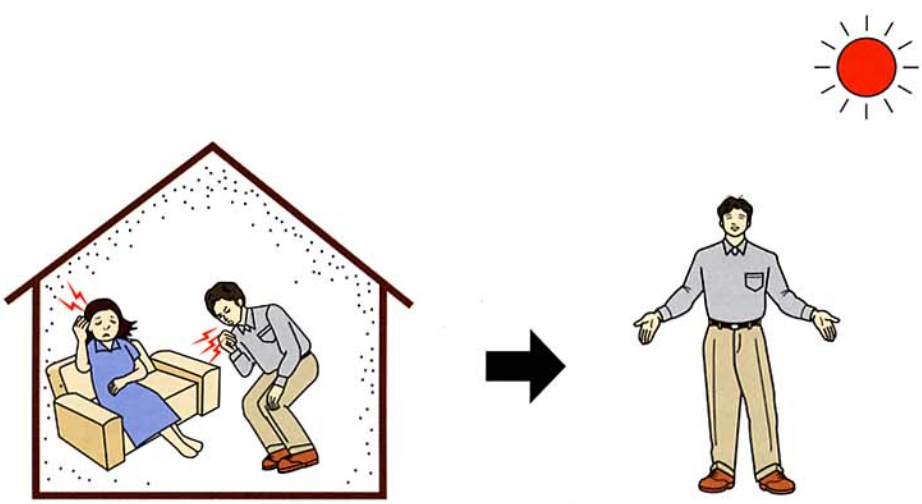
ーシックハウス症候群とはー

新築の住宅，リフォームした直後の住宅やビル，職場が新しいビルに引っ越した途端，室内に入ると気分が悪くなる，だるい，のどが痛い，咳が出るなど，居住者や執務者が自覚症状から体調の不調を訴える比較的新しい病気です。

日本では，一般的に「シックハウス症候群」と呼ばれていますが，事務所ビルでも訴えが起こっていることから世界保健機構(WHO)では，「ビル・ホーム関連健康障害」という表現の方が適切であるとも言われています。

ある建物の中にいるときだけ症状が出るのがシックハウス症候群です。その建物から屋外へ出ると症状は和らぎます。

しかし，化学物質への暴露が多量であると，その後，タバコの煙，塗料のにおい，燃焼排気など，空気が汚れている建物の中で決まって体調の不調を訴えるとか，室内ではないのにやはり空気が汚れている場所で症状が悪化する，アレルギーが出現する等の症状がでてきます。これが化学物質過敏症です。

化学物質過敏症に罹った人は，極めて微量の化学物質に暴露されただけでも症状が出てしまいます。

本パンフレットは，学校施設でのシックハウス症候群への対応について施設整備上の主な配慮点を示しています。